



三条北ロータリークラブ週報

友達になろう

BE A FRIEND

国際ロータリー会長 ビル・ハントレー 第2560地区ガバナー 大島精次

例会日
1995. 4 . 25
累計 No 411
当年 No 40

会長/大野新吉

幹事/米山忠俊

SAA/馬場直次郎

例会日/火曜日 PM12:30~1:30

例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局/三条市西四日町3-15-34

ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

FAX ☎33-8972

行事: 夫人同伴例会 於三条ロイヤルホテル

出席: 本日の出席 54名中38名(内記帳13名)

先週の出席率 54名中48名 88.89%(前年同期92.73%)

先週のメイクアップ: 4月19日 三条RCへ 中條耕二さん

20日 燕RCへ 加藤実さん 江口悟さん 小林満さん

20日 見附RCへ 淵岡茂さん

23日 中条胎内RC(認証状伝達式)へ 佐藤啓策さん 布川和雄さん

24日 三条南RCへ 中條耕二さん 松永昌一さん 落合益夫さん

平松利朗さん 木宮隆さん

25日 札幌西RCへ 淵岡茂さん

ビジター: 三木みどりRCより 藤本晏夫さん

加茂RCより 山川雄士さん 番場洋二さん 本間庄松さん 野本正次さん

三条RCより 古澤富雄さん 林光輝さん 五十嵐総一さん 藤田紘一さん

田中昭さん 瀬下一三さん 関本哲秀さん

三条南RCより 三原徹夫さん

会長挨拶: 大野新吉

今晩は大野年度最後の夫人同伴夜例会とと思っていましたが、6月の会長幹事慰労会が昨年末の八十里越えが今井会員並びに大竹会員のお力添えのもとで実現の運びとなり夫人参加のもとで八十里越えを走破しその疲れた体を嵐溪荘のお湯で癒して致く時期的に最高の計画をして致しました。

先週村松公園に花見に行って風邪を引いて来ましたが本日は夫人同伴の夜桜見物、時間の許す限りごゆっくりご歓談致したいと思います。

又それに先がけて本日は県央研究所理事長の高野さんより「食性活」の演談でお話しをして致します。ご期待下さい。

幹事報告:

なし

卓 話: 「食性活を考える」県央研究所 高野理事長



昔から「食」は「色」に通じるとされる。つまり“食べたいこと”は“やりたいこと”…が、しかし、いずれも「心」がポイントでプロセスが重要である。

しかし、現代人はどうだろうか？ 物質的豊かさの影で、単なる衝動的食欲のみを追い求めているのか、考えてみたい。

1、無国籍食品に“不感症”となっていないか!?

我々人間の食べものは、自分達で作り、そして食べるというのが本来の姿で、ここから分業が始まったわけだが、我々は「誰が」「どこで」「どのようにして」作ったかわからない食品に囲まれ、毎日食べているが、この中にいる私達は、その事自体に何の疑問も持っていないのではないだろうか。これは重大な意味を有すると思う。

2、全児童プロイラー化の子供達!?

日本の食事は「器」を食べる……と言われるほど食事に関与する全体の奮意気を重視している。しかし、あつくて持てない容器、一枚板の容器とホークでは「犬食い」な当然であろうし、箸も悪くなる。又、集団調理のため、作ることを知らないでただ食べるだけ、これはどう見ても、単なるエネルギー補給「餌」としか考えられない。従って、その容器は「餌箱」であろう。

3、他人食全盛時代!?

冷蔵庫を開ければ、作ることもせず、すぐ食べられる時代、素材から料理までの連続性を見ない子供達は、その過程なしに料理が出来上ってくるものと見るだろう。料理とはおかあさんが作るものではなく、売っているものと考えても不思議ではない。従って、食べることは消費すること、単なるフューエルでしかなく、何を食べようが、それが安くて手がかからず、美味しければそれで最高、日本のものであれ、外国のものであれ、そんなことは、どうでもよい。消費者の勝手、選ぶ権利があるんだという意識が強いのではと思う。

4、日本国民総家畜時代!?

野生動物の食物摂取行動は「さがす」「つかまえる」というプロセスを通して、はじめて「食べる」ことができる。さがす、つかまえるを省略して食べるだけで満足できる動物が「家畜」である。その意味では何も作らず、ただ食べるだけで満足する現代人は、まさに家畜同類ではないだろうか。

しかし、便利さは麻薬的なところがあります。この便利さに慣れ、“思い違いによる思い込み”をすると大変です。そこで、今、私達が考えなければならないことは……何を食べるかではなく、

「どのように食べるか」その知恵であり、工夫が極めて重要と思われる。逆に、何を食べるかのみを考えると次々にいろんな問題や誘惑の危険性がある。

又、プロセスの大切さも再認識が望まれる。時間をかけ調理し、時間をかけて食べる、この時間をかけてプロセスとつき合う利点の1つには、そのものに愛着を感じるヒマがあること、換言すれば「食」も「性」も手に入れたそのものの質ではかられるものではなく、それを手に入れたために費される時間、想いではかられるものだろう。「時間」と「想い」は切り離し難く、時間をかけることで想いを深め、愛着をこめるからこそ「食」も「性」も人間にとって意義深いことであろう。

“穴を挿すだけならブタでも出来る。” 私達は再一度、ヒゼンダニ、ハダニ、ホコリダニの「ダニの性感」を学ぶべきではなかろうか。

会員増強のしおり:

・私達のクラブを強化できる唯一の方法はあなたが有資格者を会員として推薦することであるということを忘れないで下さい。

四つのテスト

— 言行はこれに照らしてから —

- | | |
|------------|------------------|
| I 真実かどうか | III 好意と友情を深めるか |
| II みんなに公平か | IV みんなのためになるかどうか |

5月2日例会: 会員卓話 佐藤義英 江口悟さん

5月9日例会: 家庭会合報告会